

2019年1月10日

会員各位

一般社団法人 触媒学会
会長 福岡 淳

2019年度触媒学会会長候補者信任のための会員投票について(お願い)

正会員(シニア会員、S会員を含む)による2019年度触媒学会会長候補者の信任投票を実施します。本投票により信任されますと、2019年度会長候補者は会長最終候補者となります。なお、会長最終候補者は5月開催予定の定時社員総会にて理事として選任後、引き続き開催される理事会にて2019年度会長に選任されます。

投票は原則としてウェブ投票により行いますが、ご希望により郵便での投票も受け付けます。

2018年11月10日開催の役員候補者選考委員会および12月8日開催の理事会において、2019年度会長候補者について審議が行われ、その結果、山下弘巳氏(大阪大学)が候補者として選出されました。

つきましては、候補者の「経歴と会長としての抱負」(別紙および本会ウェブサイト記載)をご覧のうえ、下記によりご投票くださいますようお願いいたします。

記

1. ウェブ投票による方法

ウェブ投票を行うには、会員マイページ(<https://www.shokubai.org/general/kaiin/mypage.html>)の会長候補者信任投票のバナーからログインし、手順に従って投票をお願いします。なお、このバナーは2019年2月1日(金)午前10時に公開予定です。

■会員ID(会員番号)およびパスワードの確認

会長候補者信任投票のバナーからログインする際に、会員IDとパスワードが必要になります(会員マイページ・触媒 OnTheWeb の会員ID、パスワードと同じです)。パスワードをお忘れの際はこちら(<https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/auth/password>)からご確認ください。

次の場合は事務局(catsj@pb3.so-net.ne.jp)にご連絡ください。

- ・会員ID(会員番号)を忘れた場合。
- ・ご登録されているメールアドレスを変更された場合、あるいは未登録で、「パスワードをお忘れの場合(再発行)」ボタンを利用できない場合。

■投票期間：2019年2月1日(金)午前10時から2月28日(木)正午

投票は1回限りです。提供された情報は、会長候補者の信任投票業務以外の用途に使用することはありません。

2. 郵送による投票方法

郵送による投票を希望される場合には、事前に投票用紙の送付を請求していただく必要があります。

■投票用紙の請求方法

会員番号、氏名および郵送先住所を明記の上、Fax または e-mail でご請求ください。電話での申し込みには応じかねますので、予めご了承ください。

請求先：一般社団法人 触媒学会事務局 FAX：03-3291-8225, e-mail：catsj@pb3.so-net.ne.jp

■投票用紙の請求期間：2019年1月10日(木)から2月8日(金)

■郵送による投票期間：2019年2月1日(金)午前10時から2月28日(木)正午(必着)

投票用紙の送付先：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館3階
一般社団法人 触媒学会 選挙管理委員会 宛

以上

触媒学会会長候補者「経歴と会長としての抱負」

1) 候補者指名

山下 弘巳 (やました ひろみ)

2) 生年月日

1959年12月8日

3) 略歴

1982年 京都大学工学部石油化学科 卒業
1987年 京都大学大学院工学研究科石油化学専攻 博士後期課程修了
1987年 東北大学非水溶液化学研究所・助手
1992年 東北大学反応化学研究所・助手
1992年 大阪府立大学工学部応用化学科・助手
1995年 大阪府立大学工学部応用化学科・助教授
2004年 大阪大学大学院工学研究科マテリアル応用工学専攻・教授
2005年 大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻・教授 (現職)
この間、1998～1999年 カリフォルニア工科大学客員研究員
2005年～ 大阪大学太陽エネルギー化学研究センター・兼任教授
2010年 パリ大学 (ピエール・マリー・キュリー大学)・客員教授
2014年～ 京都大学触媒・電池元素戦略研究拠点・拠点教授



4) 所属・職位

大阪大学大学院工学研究科・教授

5) 専門分野

触媒科学、材料化学、光触媒、ナノ構造触媒

6) 受賞歴

1997年 触媒学会 奨励賞
1998年 石油学会 奨励賞
2005年 日本金属学会 功績賞
2009年 光化学協会 協会賞
2015年 触媒学会 学会賞 (学術部門)
2016年 錯体化学会 貢献賞

7) 会長としての抱負

多種多様な社会貢献をしている触媒を対象として、情報交換・交流の場を提供し、学術的技術的発展を促す重責が触媒学会にはあります。触媒研究開発の発展には、異分野との融合や連携に加え、境界領域の開拓は不可欠です。そのためには、触媒学会が展開している研究技術開発、一般向け啓蒙活動、若手研究者の育成、産官学・世代間の連携、各種研究会活動、国際交流活動などのより一層の活性化・特色化を図ると共に、内外に向けて今まで以上にわかりやすい情報発信を行う必要があります。討論会開催と学会誌・出版物発行などの従来通りの学会活動に加え、広報活動の戦略化と産官学若手研究者間交流の充実が近々の重要課題と考えます。国際交流においては、日韓・日台・日中 (環境) などの2国間シンポジウムを核として躍進するアジア各国との交流の充実化、40数年ぶりになる国際触媒会議(ICC)の日本誘致に向けての準備に取り組みたいと思います。